

NPO法人と協働で 障害理解に向けた動画制作

社会福祉学科の笠原ゼミ



ゼミの話し合い

動画撮影の様子

総合人間科学部社会福祉学科の笠原千絵准教授が、NPO法人「超大学」(以下、笠原ゼミ)と、NPO法人障がい児・者の学びを保障する会が、昨年協働で制作した動画が、3月からYouTubeに公開されている。動画のタイトルは「NPOのちぐはぐ研究」。

「超大学」とは障害の有無に関わらず、年齢・性別・立場を超えて双方に学び合う新たな学びの場、障害当事者との関わりの中から新たな気づきや発見を生じさせる。「NPOのちぐはぐ研究室」は、知的障害のある人たちがそれぞれの暮らしの中にあるさまざまな疑問や違和感、すなわち「ちぐはぐ」について、みんなで話したり演じたりするプログラムだ。「チームワークを通して学ぶインクルージョン」が笠原ゼミのテーマで、ゼミ活動のひとつが協働プログラム「超大学」への参加だった。テーマの背景には、従来の役割や立場、力関係を見直すということがある。社会の中で排除されやすい知的障害者による問題提起から、陥りがちな思い込みや固定化した枠組みに気づき、障害とは何か、どのように作られるかについて考え、知的障害のある人に新しい役割を作り出す。教皇フランシスコのメッセージ「『叡智の座の大学』で学ぶ者へ」にも大きな影響を受けているという。

笠原准教授は「動画制作を通して実際の当事者一人一人との出会いがある。障害のある人という捉え方ではなく、一緒に」

調査報告会・シンポジウム

パラリンピックの開催と共生社会の実現

多文化共生社会研究所が主催



睦道学長による挨拶



共生社会をテーマに議論

3月25日、多文化共生社会研究所主催の「パラリンピックの開催と共生社会の実現」が対面とオンラインの併用で開催され、学内外から約120人が参加した。同研究所は「障害の有無や文化の違いを超え、互いを認め合いながら共に生きる社会」の実現を目的に、2020年4月

に開設された。冒頭挨拶で睦道佳明学長は、関係者への謝辞と研究所への期待を述べた。第1部は、「パラリンピックの開催が障害者イメーシに及ぼす影響」4000人の追跡調査から「〜」と題して、研究所長久田満穂総合人間科学部心理学教授による調査報告があった。調査は、「パラリンピックを観戦した群」と「しなかった群」に分け、障害者への意識の変化を数値で提示したもので、この調査結果を踏まえてパラリンピック開催の意義について課題提起がなされた。第2部では、「パラリンピック東京大会のレガシー」をテーマに議論

「再生」を目指す姿を追った。審査員からは、山谷の難しい取り組みにスポットを当てた点が高く評価され、今回の受賞となった。受賞した3人は、2年次に新聞学でドキュメンタリー制作する水島宏明教授のゼミに所属。倉持さんは「初めて制作したドキュメンタリーが賞をいただいたのは大変うれしい。これからも社会のさまざまな問題に目を向けて作品制作していきたい」と意気込んでいる。水島教授は「所属の学生たちは、『東京ヒデオフェスティバル2022』で5作品が受賞するなど、全国の映像コンテ

第4回

日本語スピーチコンテスト

5カ国10人の留学生が参加

3月5日、言語教育研を受講中の留学生が学習センター主催「第4回成果を公の場で発表する機会」として、初級・中級部門、中級後半・上級部門の2部門で実施された。本学で日本語

当日は、一次審査を通じて各部門5人の学生が登壇。計10人の出身国は5カ国におよんだ。日本への興味や留学について、社会の在り方から将来の夢についてなど、バラエティに富むスピーチが動画により披露された。日本語科目の講師をはじめとする約30人の視聴者が、留学生のスピーチに真剣に聞き入り

「特にオンラインでは相手が見えない状況も多いが、伝えたいことが伝わるように相手を想像しながら相手に合わせた話し方を心掛けることが大切」との講評をいただき、大きくうなずく出場者の姿が見られた。優勝、準優勝者の受賞スピーチの後、出場者の笑顔にあふれた記念撮影で表彰式は幕を閉じた。

優勝、準優勝者の受賞スピーチの後、出場者の笑顔にあふれた記念撮影で表彰式は幕を閉じた。

「再生」を目指す姿を追った。審査員からは、山谷の難しい取り組みにスポットを当てた点が高く評価され、今回の受賞となった。受賞した3人は、2年次に新聞学でドキュメンタリー制作する水島宏明教授のゼミに所属。倉持さんは「初めて制作したドキュメンタリーが賞をいただいたのは大変うれしい。これからも社会のさまざまな問題に目を向けて作品制作していきたい」と意気込んでいる。水島教授は「所属の学生たちは、『東京ヒデオフェスティバル2022』で5作品が受賞するなど、全国の映像コンテ



今回は、新型コロナウイルス感染症の影響による入国制限のため、映像による最終審査で入賞者を決定。言語教育研究センター長の藤田保教授や日本英語検定協会会長の吉田研作名誉教授ら4人の審査員が、内容、構成、言語の明瞭さ、話し方などを考慮して審

中級後半・上級部門の優勝者は中国出身のチンフェイフェイさん(総務)

中級後半・上級部門の優勝者は中国出身のチンフェイフェイさん(総務)

中級後半・上級部門の優勝者は中国出身のチンフェイフェイさん(総務)

中級後半・上級部門の優勝者は中国出身のチンフェイフェイさん(総務)

丹波篠山映像大賞

新聞学科生3人が 準大賞・兵庫県知事賞



取材協力者の方々を囲んで

兵庫県丹波篠山市などが主催するアマチュア対象の映像コンテスト「第33回丹波篠山映像大賞」において、文学部新聞学科3年の倉持陽菜さん、丸橋里花さん、藤井健輔さんの3人が制作したドキュメンタリー作品が、準大賞の兵庫県知事賞に選出された。受賞作は「山谷再生物語」で、東京・山谷地区の住人たちに焦点を当てた作品だ。かつて日本の高度成長期の建設工事現場を支えた日雇い労働者が集い、貧困の象徴とされた同地区の住人が、高齢化に伴い行き場を失う中

倉持さんは「初めて制作したドキュメンタリーが賞をいただいたのは大変うれしい。これからも社会のさまざまな問題に目を向けて作品制作していきたい」と意気込んでいる。水島教授は「所属の学生たちは、『東京ヒデオフェスティバル2022』で5作品が受賞するなど、全国の映像コンテ

倉持さんは「初めて制作したドキュメンタリーが賞をいただいたのは大変うれしい。これからも社会のさまざまな問題に目を向けて作品制作していきたい」と意気込んでいる。水島教授は「所属の学生たちは、『東京ヒデオフェスティバル2022』で5作品が受賞するなど、全国の映像コンテ

受賞・採択

学生

谷畑耀 (理工学) 専攻情報学領域博

伊藤陽太 (理工学) 専攻機械工学領域博前1)

松坂亮兵 (理工学) 専攻機械工学領域博前2)

中村 駆 (理工学) 専攻機械工学領域博前1)

自動車の内燃機関技術研究組合 2021年度 ACE Award 成果表彰 (受賞日: 3月4日)

自動車の内燃機関技術研究組合 2021年度 ACE Award 成果表彰 (受賞日: 3月4日)

自動車の内燃機関技術研究組合 2021年度 ACE Award 成果表彰 (受賞日: 3月4日)

自動車の内燃機関技術研究組合 2021年度 ACE Award 成果表彰 (受賞日: 3月4日)

自動車の内燃機関技術研究組合 2021年度 ACE Award 成果表彰 (受賞日: 3月4日)

自動車の内燃機関技術研究組合 2021年度 ACE Award 成果表彰 (受賞日: 3月4日)

大澤知世 (文新) 3)

村上真惟 (文新) 3)

小林風輝 (文新) 3)

京井史華 (文新) 3)

藤 薫子 (文新) 3)

古 屋 蓮 (文新) 3)

江 上 ら な (文新) 3)

小 塩 巴 菜 (文新) 3)

菅野吏紗 (文新) 4)

東京ヒデオフェスティバル2022TVFアワード入賞 (受賞日: 3月19日)